



「まつど更女だより」に寄せて

松戸市長 本郷谷 健次

松戸地区更生保護女性会の皆様には、松戸市では安全で安心な街づくりのため、お力添えいただき心から感謝致します。

近年、インターネット等の普及により、青少年の育成を阻害する恐れのある有害情報が氾濫し、サイトを通じて犯罪に巻き込まれるケースがあります。その被害は、中学生や高校生だけではなく小学生に及ぶこともあります。ネット犯罪が増加する背景には、地域活動に参加し、地域において交流や体験をする機会が少なくなっていることも原因の一つと考えます。松戸地区更生保護女性会の皆様は、地域でミニ集会を開き、非行を生まない、犯罪を予防する活動をされており、松戸市の子供たちが地域で健やかに成長していけるよう地域の課題に沿った活動をされており、近年弱くなったと言われている人のつながり、地域の絆を深める活動を担っておられます。

また、更生保護事業の成果を上げるためには、地域の人々の積極的な協力を欠かすことはできません。今年度も、7月の社会を明るくする運動強調月間に講演会とコンサートを開催し、多くの市民が来場されました。多くの市民が更生保護事業を知るきっかけとなり、地域での更生保護活動の輪が広がることを切に願います。

松戸地区更生保護女性会の皆様には、女性の持つ温かさや細やかさを生かし、今後も更生保護の心を広め、安心して安全な街づくりにお力添えを賜りますようお願い申し上げます。



連 携 ・ 協 働

会 長 佐南谷 雅枝

県連盟では連携・協働活動を推奨し、ブロック研究会でも中心主題です。連携・協働とは、目的を同じにする組織が互いに連絡をとり、協力して活動をする事です。

「組織」と言っても外部組織と内部組織があります。外部組織は社明7団体、BBSなどのボランティア団体です。

内部組織は、松戸更女会の事業部、研修部、広報部、支援部、そして役員会です。連携・

協働を実際の活動に照らして考えると、各部会の連携・協働を確かなもの出来ていれば、外部組織へ「私たちはこんな事をしています。」「こんな事ができます。」と自信を持って発信し、外部組織と活動を伴った連携が始められると思います。

ともすると、号令だけの連携になりかねませんが、常に地区内の連携・協働を強めて、実効の伴った活動を発信しましょう。

発信するところに情報も集まり、社会のニーズにあった活動が進められるでしょう。

30年度 主な活動の紹介

八街少年院 読書感想文発表会へ

平成30年5月30日(水)

田口 淑子

松戸地区更女会の10名が、晩春の力強くも心地よい緑の中を、この発表審査に伺いました。

開始時刻9時40分に案内された講堂には、全院生と職員の方々が椅子にかけて整列していました。張り詰めた空気に私たちも思わず背筋を伸ばしました。前半4名、後半4名、計8名の発表の審査でした。

どの発表者も緊張の面持ちで演台に上がり、自分の感想をしっかりと伝えようとする真摯な態度に好感を持ちました。中に原稿を一度も見ずに発表を終えたひともありました。

書物の主人公と自分や家族を重ね合わせ、素直に率直に述べられた内容からは、院生の努力と、指導に先生方の熱意が伝わってきました。講評のときには、「その気持ちを忘れないで」「その気持ちを回りの人たちに発信し続けて」と、伝えました。

そして、こうしたひとたちを受け容れ、支援させてもらえるよう、私たちはしっかり考えてゆかなくてはいけないのだと、心を新たに致しました。

態度も内容も、優劣をつけるのが難しい、心のこもった発表に審査する私たちはすっかり悩まされました。しかし、清々しさの残る有意義な体験をさせていただきました。



『バス研修会』

平成30年6月15日(金)

松戸市民劇場前発→塚田歴史伝説館(その他)
→染谷会館(昼食)→栃木刑務所(視察)
→松戸市民劇場前着

栃木刑務所 視察研修会に参加して

白鳥 ひさじ

小雨降る中、松戸市民劇場前を7時出発致しました。本日は28名の会員で、バスの中もゆっくり自由に着席して朝の笑顔のごあいさつから始まり、皆様から頂きました沢山の心づくしの美味しいおやつ、おにぎり、お茶を感謝していただきました。バスの中は朝食のにおいでいっぱい、楽しい出発となりました。

バスの中ではモニターによる研修会を行い、大変勉強になりました。耳で、目で、心で受ける研修。現地到着までにいろいろ知る事が出来ました。時間調整の中、わゴムのおしゃれスカーフ利用の帽子、プローチ等、頭の体操も楽しみました。又、歌の本により皆さんで歌う楽しい時間もあり、声を出す大切さ、皆さんと一つになる心の輪と、すべてがすばらしい研修でした。

刑務所では、平成12年に出来たすばらしい母子像に心を打たれました。そして所内で説明を受け、沿革明治5年設立から組織迄、30年4月1日現在総数625名、外国人151名、収容定員655名、受刑者の年齢、刑期、罪名、入所者から出所までの説明等を聞き、その後、所内の作業や職業訓練を見学し教育等、本当に立派に更生に立ち向かう姿に感動しました。食堂の大きさにびっくり。600人が昼食を摂る1日400円の食事、900kcal。

地域との連携事業等本当に2年間ぎっしりつまった各種教育実習にも感動致しました。そして、一番規律を感じたのは部屋の中、女性特有のイザコザもある中、乱れない全部屋の様子。すべてを得て出所後の見守り対応がいかに大切、大事かが心に染み、職員の暖かさ、やさしさの態度に、私は涙しました。



塚田歴史伝説館にて

第一ブロック研修会に参加して

安川 良子

今年度から、ブロック別研修会を実施することとし、県内4ブロックにおいて研修を行いました。

平成30年11月13日(火) きらり鎌ヶ谷市民会館(きらりホール)で行いました。12地区(東葛飾、松戸、野田、鎌ヶ谷、市川、船橋、八千代、習志野、佐倉、印西、白井、印旛) 総数146名参加。松戸地区は9名参加しました。

午前の部では、ホールで全体会があり佐南谷会長が総合司会を勤めました。

千葉保護観察所長 原沢和茂氏の講話は、「少年と非行問題」について、過去のデータをグラフで説明がありました。少年非行は平成15年をピークに減少(ただし、殺人事件はほぼ横ばい)しています。

犯罪を繰り返す人たちの割合は徐々に上昇し、検挙された人員の約半数を占めているそうです。犯罪を繰り返させないためには、初期の段階での対応が大切です。その意味では、非行のある少年たち、その保護者に適切に対応し、必要な支援等を実施し、着実に立ち直りを促すことが求められています。立ち直った少年から見てくるものは、家族との良好な関係です。家族の支えがあれば就学、就労に励みます。社会的役割や達成感の獲得、新たな友人、知人との出会いに繋がります。そこで、自分の役割が見えてきます。少年と非行問題は、家族の責任だけではなく、社会的、経済的な背景についても目を向けて行かなくてはなりません。孤立ではなく包摂、支援が大切だとの意識を持ちたいものです。

午後の部は、4分科会ごとに分かれ、70分間の意見交換が行われました。松戸地区では、島倉さんが第1分科会C班の司会を私は、第2分科会A班の司会を勤めました。

私の分科会では、資料の報告を読み、どのように活動しているか話を伺いました。昭和35年頃から食事を満足に食べられない子ども達のために更女会は、1軒ずつ回って一円募金をお願いし、子ども達に食べさせたと報告がありました。今では市と連携・協働し全市民に一円募金運動を社明の前3週間続け、収益で講演会を開き、残金で紙粘土人形作成して小学校6年生に贈るそうです。支援している小学校、中学校の卒業生にタオル犬人形、しおり人形を作成し贈っている活動地区も多数ありました。しおり人形の指導を中学校3年生にしている地区もありました。また、中学一年生を迎える行事に親子で食事を作り食べる交流会を開いている。具代は寄付と親から300円徴収している地区や、子育て支援に50代から80代のボランティアが参加活動し、三世代ふれあい広場では、中学生が着ぐるみを着て呼び込み参加をしている地区もありました。民生委員、母子推進員、更女会の協働で子育て活動実施をしている地区では、親子で百組参加する事もあり、子ども達は元気に走り回り、遊具で楽しく遊んでいるそうです。

活動している地域の方々と年に一度明治座にバスで出かける地区もありました。

どの地区も活発に発言され、活動内容も様々でした。高齢化により、会員数に対し活動出来る人が少なくなっている地区もあり、これからの活動を見直しせざるを得ない地区もありました。地域の安全・安心に繋げるためにも他団体と連携・協働も必要な場合もあるようです。

最後にホールで各分科会八人の司会者・書記が、地区の活動や他団体を巻き込む、活動に参画・協働の方法を発表報告しました。

他地区との交流で、活動の様子が垣間見られ、大変有意義な一日を過ごすことができました。



千葉更生保護女性連盟会長 伊藤道子氏

更生保護関連団体交流会

2月1日(金) 女性センターにて、協力雇用主会・保護司会・更生保護女性会3団体による第1回交流会が開催されました。保護司会吉本副会長が進行され、罪を犯した人が元の生活に戻り見守りを続けている現状報告がありました。

協力雇用主会戸田会長より、会社・家庭・学校教育の大切さを訴えられました。ご自身も倫理的な人つくりの為に「挨拶・掃除」基本的な事を続けられています。駅前清掃活動は27年目に入るそうです。

更女会佐南谷会長からは「これからはハートのある連携が必要」。立ち直りを支える為に保護司会と連携し、更女会のバザー収益金を活用して支援しています。3団体が協力・連携し3本の矢の様に固い絆で、地域を支えていければお互いに「いいね!」と、なっていくと思います。

参加者の自己紹介後、各団体の情報交換をし、和やかに交流会終了となりました。

各団体は、BBS会と更生保護施設とも協力・連携しています。



ハートのある連携

「新入会員研修会」

志田 菜穂子

6月26日(火)、太田副会長に引率していただき、千葉市生涯学習センターを訪れました。

千葉保護観察所長のあいさつから始まり、更生保護とは、更+生で甦るという意味があることや、過ちに陥った人たちを包摂し、共生する思想を教えてくださいました。

千葉保護観察所長より、原沢和茂氏の「立ち直りを支えるしくみ」の講義では、再び罪を犯さないよう立ち直りを助けるために、どのような人たちが、どのような支援をしているのか、という内容や、罪を犯した人でもプラスの発想で考えると、社会に役立つ何かがあるのではないかと自身も模索中だとお話くださいました。

千葉県更生保護女性連盟会長伊藤道子氏の「更生保護女性会活動について」の講義では、更女の歴史や活動内容の説明、地域の課題や実情に応じて様々な活動を企画実行していく中で、「出来る人が、出来るときに、出来ることを行っていきましょう。」ということをお話くださいました。最後に御歌の斉唱と綱領唱和を行い、綱領内容のように相手を思いやる心を持って生活をし、誰もが心豊かに生きられる、明るい社会を目指そうと強く思った時間となりました。

第68回 社会を明るくする運動

「講演会とコンサート」

広報部 大黒 幸子

今年は、例年のない猛暑の中7月21日に開催されました。イベントが始まり、昨年度の作文コンクールで松戸市長賞を受賞した兼田さんと松戸市教育長賞を受賞した大塚さんの朗読がありました。お二人の作文を聞いた後、胸を打たれた感じがして、目頭が熱くなりました。

その後、聖徳大学名誉教授の末永清氏の講演があり、最後に河原塚中学校の吹奏楽部による演奏で会場が一体になる程、多いに盛り上がり、幕を閉じました。



高部・永田・砂川作



佐藤せつ子

新入会員の紹介



田岡 恵子

晴香園フェスタ

支援部 遠峯 厚子

11月3日(金)晴天に恵まれ、子どもたちが楽しみにしていたフェスタが今年も開催されました。

模擬店、バザー、手作りパン、お弁当を売る店がありました。子どもたちと一緒に保護者も買い物をし、ミニゲームを楽しんでいました。大勢の人でとてもにぎやかでした。

私たちも「黒砂糖どうですか。」と、声をかけ、黒砂糖や百合根を販売しました。

子どもたちや職員の方々、地域のボランティアの皆様でフェスタを盛り上げ、楽しい一日を過ごしました。

フェスタ実施は7回を迎え、園の子どもたちばかりでなく地域の応援もあり、地域と連携ができています。

更女会のバザー参加は2回目です。売り上げは全額晴香園に寄付致しました。これからも皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。



表彰おめでとうございます

2018年11月22日：君津市民文化ホール
第62回 千葉県更生保護大会



☆関東地方更生保護委員会委員長感謝状
石村 時子様
☆千葉保護観察所長感謝状
遠峯 厚子様
☆千葉県更生保護女性連盟会長表彰
篠 雅子様

地域との連携支援活動

更女会から、子育て支援活動をしている矢切地区社協「みんなといっしょ」に大きなトンネル遊具を寄付致しました。

写真の会場は、総合福祉会館内まつど市民活動サポートセンター、多目的ホールです。ホール開催日は、水曜日第2・4・5 午前10時~12時です。

ホールには親子で遊びに来ていました。子どもたちに安全で安心して遊べるよう、地域ボランティアの方や更女会の方も見守りをしています。子どもたちは、遊具で元気に遊んでいました。



みんなといっしょ